

## 加藤産業、加工食品卸売企業株式取得を完了

加藤産業(本社・兵庫県西宮市)は2018年1月31日、マレーシアの食品卸売会社 Lein Hing Holdings Sdn. Bhd.(レイン・ヒン・ホールディングス社)の株式取得が完了したと発表した。

同社は昨年8月9日に、レイン・ヒン・ホールディングス社と株式譲渡契約を締結したことを発表していた。

日用雑貨・加工食品卸売を手掛けるレイン・ヒン・ホールディングス社は、クアラルンプールおよびマレー半島北部を中心に、主要な小売業者との強い取引関係を築き上げている有力企業であり、資本金は525万リングで、創業以来40年の業歴を誇る。

当グループは、すでにマレーシアにおいて事業を展開しているが、買収によりマレーシアにおける存在感をさらに高めるとともに、アジア地域において展開している中国およびシンガポール、ベトナムとの協業を進めることで、より一層の海外事業展開の強化を図り、企業価値の向上に取り組む。

## 明電舎、ジョホール州に新たな営業拠点設置

明電舎(本社・東京都品川区)は2月1日、子会社である MEIDEN MALAYSIA SDN.BHD.(明電マレーシア)の営業所をジョホール州に開設したと発表した。同日より営業活動を開始した。

同地域はクアラルンプール周辺地域に次いで多くの日系企業が進出しており、顧客の変電設備の新設・保守点検・更新需要が見込まれており、ジョホール営業所開設により、今後も日系顧客の工事の受注獲得を目指す。

明電舎は1973年にマレーシアに進出後、電気工事・技術コンサルティング及びアフターサービスを中心に事業展開し、メーカー系電気工事会社の強みを活かしたサービスを提供してきた。

## レカム、マレーシアでLED照明販売事業を開始

レカム(本社・東京都渋谷区)は2月5日よりクアラルンプールにおいて、LED照明、業務用エアコン等の販売を開始すると発表した。

マレーシアでのLED照明販売事業について 当グループは、中小企業の顧客に対し情報通信機器の販売、設置工事、保守、インターネットサービスの販売を主力事業として行うほか、LED照明などの環境関連商材の販売や電力の小売を行う環境関連事業、BPO(顧客の業務プロセスの一部を受託する)事業、海外法人事業(海外拠点における環境関連事業やOA機器の販売等)を行う。海外法人事業は、中国の上海市・大連市・広州市と事業展開し、2017年よりベトナム、ミャンマーにおいて事業進展している。今回、マレーシアはASEAN地域で3か国目の進出となり、マレーシアには、約1,500社の日系企業が進出しており、同社でマーケティング調査を実施したところ、LED照明を導入している日系企業は約17%にとどまったが、未導入の日系企業においてもLED照明への関心が高いという結果が得られた。ASEAN地域での海外法人事業(LED照明、業務用エアコン、OA機器販売)については、昨年8月より開始しているベトナムの事業が立ち上げ当初か

ら販売実績が好調に推移していることもあり、クアラルンプールでの展開を当初より前倒して営業を開始する。

## とちかち製菓、和菓子で初のハラール認証を取得

とちかち製菓(本社・北海道河西郡中札内村)は2月9日、マレーシアのイスラム開発局(JAKIM)よりハラール認証を取得したことを発表した。

ハラール認証を受けたのは、よもぎ大福、白大福、豆大福、きな粉大福、赤大福、きな粉わらび餅、抹茶わらび餅、白玉ぜんざいの8品目となる。3月からは北海道十勝産小豆を使用した小粒のよもぎ大福と豆大福(業務用)を発売する予定だ。

同社はマレーシア現地企業へ和菓子生産技術を指導することにより、ハラール認証を取得した大福の開発に成功し、2016年マレーシアで販売を開始していた。

## マレーシア味の素がセレンバンで用地取得、新工場建設へ

マレーシア味の素は2月12日、ヌグリスンビラン州バンダルバルエンステックにある約18万8,604平方メートルの用地を買収したと発表した。

マレーシア証券取引所(ブルサ・マレーシア)に開示した情報によると、巡礼基金(タブン・ハジ)と不動産開発 THP エンステック社が保有していた用地を、約8,608万リンギット(約23億6,211万円)で買収した。マレーシア味の素は取得した用地に、同社商品の製造工場と物流施設などを建設する計画だ。工場建設の具体的なスケジュールは示していない。

マレーシア味の素は、「長期的な事業拡大計画と製品需要増に対応するための製造施設拡大計画に沿ったもの」と説明し、買収用地に生産工場を建設する意向を明らかにした。

用地取得は2019年7月末までに完了する予定だ。

## 日本ライフライン、ペナンに医療機器工場を建設へ

日本ライフライン(本社・東京都品川区)は2月26日、子会社のマレーシア現地法人 JLL Malaysia Sdn. Bhd.(JLL マレーシア社)が Penang Development Corporation(ペナン開発公社)との間で工場用地取得に関する契約を締結したと発表した。同社初の海外工場を建設する。

当該工場用地はペナン州半島側のノース・ペナン・サイエンス・パーク内になり、面積は1万6,211平方メートル。

マレーシア工場では、バルーンカテーテル、EPカテーテル、アブレーションカテーテル、オープンステントグラフト等の心臓循環器領域の医療機器を日本向けに製造する予定である。

今後2年間で工場用地の取得費用の他、生産設備等も含め、約20億円の投資を予定しており、本工場の竣工は2019年下半期、稼働開始は2020年初めを計画しており、稼働時点での従業員数は約50名を見込んでいる。